

● 報恩講とは

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、聖人の33回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。

先年ご往生された梯實圓勤學はご法話の中で、「ご開山（親鸞聖人）さま、ありがとうございます。あなたのおかげで私もあなたと同じお念仏をいただいて、同じ信心をいただいて、同じお浄土で今度は出遇わせていただきます、とお礼を申しあげる法要が報恩講だよ」とおっしゃられています（『伝道』2015 No84・星野親行師の寄稿より）。

一般寺院や本山、別院など全国の浄土真宗のお寺でお勤めされる報恩講に皆さまも是非ともお参りし、またご家庭でも報恩講をお勤めいたしましょう。

● 寺院の「報恩講」

全国の各寺院では一年に一度お勤めされます。本山の報恩講と同じ期日にお勤めする寺院では「御正忌」、本山の報恩講に先立ち9月から1月頃にかけてお勤めする寺院では、「お引き上げ」や「お取り越し」と呼ぶことが多いようです。また、地域によっては、「ほんこさん」と呼んで親しまれています。

● 本山本願寺、別院などの「報恩講」

本山本願寺においては、親鸞聖人の祥月命日にお勤めすることから「御正忌報恩講」といい、毎年1月9日から16日までお勤めします。

また、東京の築地本願寺のほか、各地におけるお念仏の中心道場として別院、教堂が全国にあります。多くは、本山の御正忌報恩講に先立ち、9月から1月上旬頃にかけて「報恩講」をお勤めします。



● 親鸞聖人のご生涯

1173年5月21日（承安3年4月1日）、京都・日野の里で誕生。9歳で得度（仏門に入り僧となること）。比叡山で20年間修行されたが、迷いや苦悩から逃れることができなかったため、山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられる。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、39歳で赦免の後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われた。1224年（元仁元年）に主著『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』を著された。その後、京都に帰り著述活動を行われ、1263年1月16日（弘長2年11月28日）、90歳でご往生。

★ 報恩講の案内

の報恩講は

月	日	から
月	日	です。

皆さまそろってお参りください。

報恩講をぐ縁に3



©2008 HONGWANJI

浄土真宗本願寺派
(西本願寺)

ありがとうの集い^{つど}

ある人の詩に、

ありがとうは しあわせの あいさつです
(くりす あきら『ありがとうのてがみ』)

という言葉がありました。

「ありがとう」と言われたら、幸せな気持ちになりますし、「ありがとう」と言うことができるのは、幸せの証しでもあるでしょう。

私たちの欲望には限りがありません。

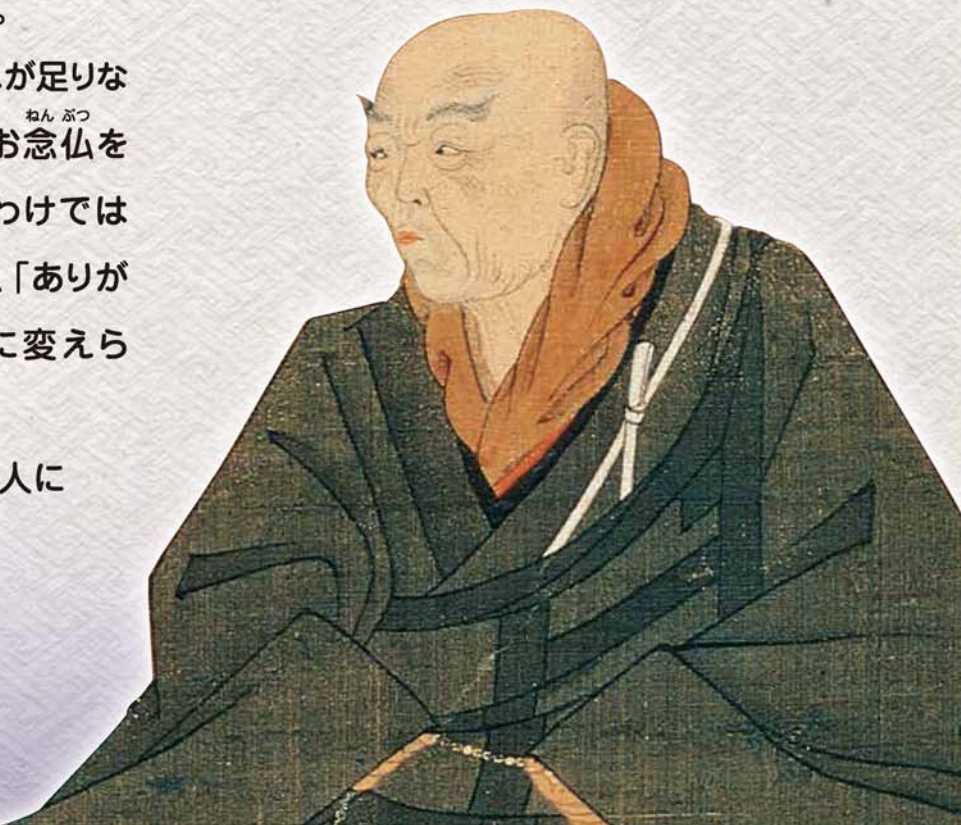
そうすると、「あれが欲しい」、「これが足りない」と、不平・不満の毎日になります。お念仏を^{ねん ぶつ}喜ぶ者も、^{ぼん のう}煩悩や欲望がなくなるわけでは
ありませんが、不平・不満の毎日が、「ありがたい」、「もったいない」という身に変えられます。

これは、念仏者は、^{おん}ご恩のわかる人に
育てられたからです。

ご恩のわかる身に育てられたのは、阿弥^{あ み}
陀さまの智慧と慈悲が、私を照らしてくだ
さったからであり、親鸞^{しん らん}さまが、その教えを
私に伝えてくださったからです。

そのことを感謝し、ご恩に報いようとする
営みが、報恩講。^{ほう おん こう}

報恩講は、「ありがとうの集い」です。



ほう おん こう き えん
報恩講を機縁に、

親鸞聖人のおこころを
より深く味わうために…



本願寺出版社では、毎年「報恩講」の時期にあ
わせて、小冊子(施本^{せほん})を発行しています。それぞ
れ報恩講をテーマに、3人の方にご執筆いただき、
さまざまな角度から親鸞聖人のおこころと、浄土真
宗のみ教えを味わってまいります。

親鸞聖人のご遺徳^{い とく}を偲び、阿弥陀さまのはたら
きに感謝する毎日を送る機縁^{し の}といたしましょう。

〈施本『報恩講』〉

毎年 9月 1日発行

1部100円+税 / B6判・32頁

※「報恩講」の他、「お盆」「お彼岸-秋」「お彼岸-春」の施本も発行していますので、
そちらもぜひお読みください。

施本各種
50部以上
10%割引

■施本のお問い合わせは、本願寺出版社まで



0120-464-583



075-341-7753